

春の訪れ

～石灰硫黄合剤散布～

3月6日（土）は「啓蟄」（けいちつ）でした。気温が上がってきますと、休眠していた越冬害虫も動き始めます。これらを防ぐため、3月16日（水）に「石灰硫黄合剤」をナシ・ブドウ・リンゴ・モモ等に散布しました。落葉果樹には、3月上旬の発芽直前までに、枝の表面を洗い流すように丁寧に散布します。石灰硫黄合剤は、殺虫作用や殺菌作用を持つ無機の農薬で、通常、赤褐色の強い硫黄臭（腐った玉子や硫黄を含む温泉の臭気）のする原液を8～10倍に希釈して使用します。強いアルカリ性で毒性や臭いもきついため、散布時には皮膚に付いたり、目に入らないよう十分に注意をしています。

